

研究・調査報告書

報告書番号	担当
476	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Ischemic Heart Disease Mortality and Morbidity Rates in Former Drinkers: A Meta-Analysis 禁酒者における虚血性心疾患の死亡、罹患率についてのメタ分析	
執筆者	
Roerecke M, Rehm J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol 2011; 173; 245-258	
キーワード	
飲酒、アルコール飲料、症例対照研究、コホート研究、冠動脈疾患、冠疾患、メタ分析	
要旨	
目的： 禁酒者を含んだ場合、飲酒の保護的効果に関する分析では過大評価、有害的影響に関する分析では過小評価につながるため、飲酒の影響についての疫学的な研究では、禁酒者は不十分な対照者として扱ってきた。そこで我々は本研究において、禁酒者における虚血性心疾患との関連について定量的評価を行うことを目的とした。	
方法： 電子データベースから系統的探索を行い、1980年から2010年の間に公開された適切な症例対照研究、コホート研究を選択し、メタ分析を行った。	
結果： 38文献が基準を満たし、症例対照研究から5,613人の虚血性心疾患症例と12,097人の対照群を、またコホート研究から232,621人の対象者のうち1,387人の複合エンドポイント症例と7,183人のエンドポイントにより分類可能な症例を集めた。性別およびエンドポイントで層別化した分析では、長期間の禁酒者と比較して、禁酒者の虚血性心疾患死亡に対するリスクは有意に増加していた(男性; 相対リスク=1.25, 95%信頼区間: 1.15, 1.36; 女性; 相対リスク=1.54, 95%信頼区間: 1.17, 2.03)。虚血性心疾患罹患率については、類似した傾向が見られたが、統計学的に有意ではなかった。いくつかの感度分析でも結果は有意であった。	
結論： 禁酒者は虚血性心疾患死亡と関連を認めた。今後の研究では、バイアスのない効果推定を得るため、禁酒者を対照の範疇から分離すべきである。	